

(三重県 宇平 博)

抑留記

滋賀県 田中 秀雄

一、出生から入隊まで

長浜市三ツ矢元町現在地にて大正十三(一九二四)

年二月一日生まれる。昭和五(一九三〇)年四月一日長浜小学校に入学、昭和十一年三月二十五日同小学校卒業、家業の麩製造卸の合間を利用して十三年四月十日長浜青年学校(夜間)軍事教練、学科と計二時間通う。同青年学校を十六年十月十日中途退学、昭和十六年十月十二日大阪陸運造兵廠に徴用さる。

二、入隊から入ソ抑留生活について

昭和二十年一月二十日現役入隊のため徴用解除、二十年一月二十五日現役入隊、鉄道兵、中国東北部牡丹江鉄道第四連隊入隊、自動車兵教育を受く。同二十年五月三十日部隊出動のため特業教育中断。二十年六月

二日鉄道隊、南滿海城に出動、同二十年八月十四日停戦、同八月二十六日ソ軍による武装解除、八月二十七日ソ軍の管理下に入る。

東京ダモイとだまされ、上下二段の有蓋貨車に積み込まれ長途シベリアに送られた。十月九日入ソ編成海城出發、ハルビン新興保にて貨車乗り換え滿州里經由チタの近く(信号駅)で貨車を降りる。二〇キロ程へ行軍、到着。

十月二十九日頃より山林伐採、兵舎(収容所)建築、まき用材の伐採、用材搬出、トラックに積み込み等の作業に従事(約七ヵ月間)。昭和二十一年五月三十日、一三キロの作業地を下山、沿海州へ向け出發。六月十九日頃ソフガワニ到着、静養、九月中旬まで天幕兵舎、弱者として作業無し。

(注)ソ側軍医の診断による検査等級の事

十一月二十五日身体検査

第一級 重労働可能健康者

第二級 重労働可能健康者

第三級 軽労働可能健康者

第四級 収容所内軽作業弱体者

第五級 入院患者

昭和二十一年二月二十四日までペトロシーにて越冬準備のため若干作業。この間に十日間ほど一五キロ北の山へ兵舎整備（ソ側）に四十人分遣さる。この頃だと思ふが、日本に向け在ソ中最初にして最後の便り（ハガキ）出す。

昭和二十二年四月末頃、キルガにて用材の貨車搭載、製材作業に約五カ月間従事。

四月二十九日から五月五日まで建築作業に従事。五月に入って民主運動の芽が始められる。

昭和二十三年十一月五日、帰国のためクイブシェフカ出発、十一月十二日ナホトカ到着。

十一月二十三日、引揚船「信洋丸」ナホトカ出港。
三、復員について

二十三年十一月二十六日、引揚船「信洋丸」舞鶴港到着。復員手続完了。

シベリアより出したハガキ自宅へ着信していた。

十一月二十九日、長浜の自宅に無事引き揚げ終わ

る。

母亡き事初めて知る。母四十五歳（亡二十一年四月）。

【執筆者の紹介】

住所 長浜市三ツ矢元町

生年月日 大正十三年二月一日

入隊 昭和二十年一月二十五日

入ソ 昭和二十年十月九日

抑留地 チタ、ソフガワニー、ペトロシー

引揚げ 昭和二十三年十一月二十六日

復員後は家業の製麩業に励まれていたが、五年ほど前に廃業されている。その間、自治会長、老人会長等、地域の発展に尽力されて、現在全抑協支部役員として活躍され、ご夫妻で余生を楽しんでおられる。

（滋賀県 村田 健造）